

在籍児童の個々の困り感に寄り添った日々 ～小さな工夫の積み重ね～

木更津市立鎌足小学校（前木更津市立金田小学校教諭） よしだ あけみ 吉田 暁美

1 はじめに

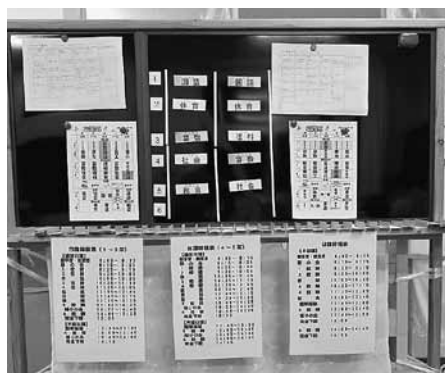
今年度鎌足小学校に異動したが、3月まで勤務した木更津市立金田小学校のはまっ子学級（自閉症・情緒）の実践について紹介する。

2 児童の実態

はまっ子1組の在籍児童は、4年生3名（男2、女1）、5年生1名（女）であった。

3 日々の指導において工夫したこと

(1) 1日の見通しを持たせるための工夫



- ・手作りのブラックボードを利用した。
- ・学年ごとに、毎朝児童がスケジュールを作ることによって1日の予定を確認した。
- ・教科名の背景の色が違うので、どこで学習するかが一目でわかるようにした。（緑色→はまっ子1組で学習。白→交流学級で学習）
- ・黒板の下に日課時程表を貼付。（A、B、木曜）
- ・この黒板の裏側はクールダウンスペースになっていた。（黒板が目かくしの役割）

(2) 在籍児童数や実態に応じた工夫

- ・1時間目を自立活動と生活単元学習とした。その内容は、①朝の会、②今日の活動、③フリータイムのようにユニット化。
- ・①の朝の会では「名札・はんかち・ちり紙

じゃんけん」で3つを身につけているか確かめたり、「うで体操」で声を出しながら肩甲骨まわりをほぐしたりする活動をした。

- ・②の活動は、畑の学習や合同学習の事前学習、バザーの商品作りや縄跳び練習、卒業式の練習などであった。
- ・③のフリータイムは、2時間目にスムーズに入れるように、短時間でもできるだけ取るようにした。

(3) 教室環境の工夫



- ・大きなスケジュール黒板と仕切りで目かくしをしたところに、金田中のサポート学級の生徒が作業学習で作ったベンチを2つ並べ、体を横にして休憩できる「クールダウンスペース」を作った。ベンチの上には、柔らかい手触りのよいクッションを置き、棚の上には花や猫のパズルなどを飾った。

4 おわりに

日々新しい課題が生まれ、それを乗り越えるための方法を一緒に考えてきたが、上記のような指導の工夫をすることにより、さまざまな困り感を持つ児童が互いに支え合い、認め合って少しずつ力を伸ばすことができた。つたない実践だが、何かお役に立てれば幸いである。

今後、鎌足小学校でも励んでいきたい。